



登録文化財に申請した武山米店

武山米店は、木造二階建ての住居兼店舗。屋根を山形に葺きおろした切妻造で、母屋の奥にはしつくい壁仕上げの石蔵がある。昭和四年の大火灾の翌年、森谷組棟梁の森谷芳右衛門が建造した。奥行き三十帖の敷地だが、間口は奥に行くほど狭くなつており、竹の子状の建物になつた。

昨年十月に建物を調査した真山代表らは「土地の形に合わせて建築する気仙沼

国登録有形文化財候補

風待ち研究会が調査

気仙沼市魚町

氣仙沼市魚町二丁目の武山米店（武山佐吉さん所）が、国登録の有形文化財候補に申請された。建築会（真山美知代代表）が調査し、市が推薦した。文化庁の認定を受ければ、今秋中にも市内三番目の国登録文化財が誕生する見込みだ。

の特徴が如実に表れ、内部の仕上げも素晴らしい。火災に対する縁起もあり、歴史を感じられる」と感想を語る。

国の文化財登録制度は、古き良き建物を残すために新設された支援制度で、主に築五十年以上の建造物が対象。登録されれば、地価

を競りたい」と話している。風待ち研究会の熱意に動かされて申請したという武山さんは「専門家の調査を通して、建築した先代の思い、職人の素晴らしい技術を感じた。できる限り守り続けていきたい」と話す。

南支

(2)

武山米店を申請

税や固定資産税の減税、改修費の低金利融資など優遇が受けられる。市内では魚町の男山本店と角星の店舗が登録されている。